



2022年6月30日 発売予定

我感ずる、ゆえに我あり

内受容感覚の神経解剖学

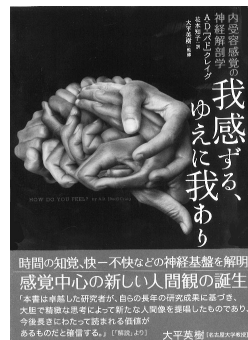
著：A.D. (バド) クレイグ / 訳：花本知子 / 監修：大平英樹

卓越した研究者が、時間の知覚、快-不快などの神経基盤を解明。
感覚中心の新しい人間像を提唱する待望の書！

- ◇ 「内受容感覚」=内臓から皮膚まで、あらゆる体の感覚が、前脳部につながる経路を通して伝わる機能
- ◆ 意思決定と行動を導く人間の「感情」。その鍵は内受容感覚信号と内受容感覚自覚にあり
- ◇ デカルトの「我思う、ゆえに我あり」は、もはや正しくない。
認知・言語能力以前に、感覚こそがリアルな「自己」の理解につながることを本書は明らかにしている。

「本書は卓越した研究者が、自らの長年の研究成果に基づき、大胆で精緻な思考によって新たな人間像を提唱したものであり、今後長きにわたって読まれる価値があるものと確信する」

大平英樹（「監修者解説」より）



四六判・上製

定価：4500円+税
776ページ

「目次」

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 第一章 内受容感覚とは何か | 第二章 体内感覚を感情と見なしてみる |
| 第三章 内受容感覚ルートの起源 | 第四章 内受容感覚と恒常性維持 |
| 第五章 島皮質につながる内受容感覚ルート | 第六章 体内感覚は島皮質で生起する |
| 第七章 思考、時間、自分自身に関わる感覚 | 第八章 脳の左右両側の感覚と感情 |
| 第九章 感覚をめぐるさらなる二、三の思索 | 監修者解説：大平英樹 |

【著者】A・D・(バド)・クレイグ (Arthur DeWitt "Bud" Craig)

1951年ミシガン州生まれ。パロー神経学研究所の神経機能解剖学者。アリゾナ大学医学部細胞分子医学科客員教授。1978年、コーネル大学にて神経生物学の博士号取得。1986年、パロー神経学研究所にて自身の研究室を立ち上げる。

【訳者】花本知子(はなもと・ともこ)

1978年広島県生まれ。東京外国語大学大学院博士後期課程終了。京都外国語大学イタリア語学科准教授。著書『アントニオ・タブッキ 反復の詩学』(春風社)等、訳書にマルチェッロ・マッスィミーニ、ジュリオ・トノーニ著『意識はいつ生まれるのか』(亜紀書房)ほか

【監修者】大平英樹(おおひら・ひでき)

名古屋大学大学院情報学研究科教授。1990年、東京大学大学院社会学研究科修了。博士(医学)。専門は生理心理学、認知科学、精神神経内分泌免疫学。編著『感情心理学・入門』(有斐閣)ほか

青灯社 営業 (担当・辻)

FAX: 03-5368-6943

TEL 03-5368-6550

eメール info@seitosha-p.co.jp

取次：トーハン、日版、楽天BN、八木書店、JRC、新日本図書

(書店印)

A・D・(バド) クレイグ 著 / 花本知子 訳 / 大平英樹 監修

我感ずる、ゆえに我あり 内受容感覚の神経解剖学

冊

ISBN 978-4-86228-122-7 C1045

定価 4500円+税